

# 徳風は更に進化します！

## － 使命宣言 －

「私たちは、生徒の自尊感情を高める実践を追求します。」



学校法人三重徳風学園  
徳風高等学校 徳風技能専門学校  
2019（令和元）年5月

# はじめに

「何が生き残るのか。最も強いものが生き残るのではない。最も賢いものが生き残るのでもない。唯一生き残るのは、変化できるものである。」

これは、進化論を説いたイギリスの自然科学者チャールズ・ダーウィンの言葉です。変わり続けるものだけが生き残るとい生態学上の真理を述べています。

学ぶことは変わること。本学園も、子どもたちと共に学び続け、進化していきます。



校長 東 則尚

## — 揺るぎない“徳風スタイル” —

本学園には、他ではあまりみられない独自の仕組みや取組があります。私たちは、それを“徳風スタイル”と呼んでいます。今後も継承する“徳風スタイル”を次の8つにまとめました。

### I 通信教育に関する“徳風スタイル”

#### 1 4つのタイプの高等学校通信教育を行っています。

「添削指導（レポート指導）」、「面接指導（スクーリング）」及び「試験」の方法で行うことと定められている高等学校通信教育について、生徒の多様な実態・ニーズ等に対応できるよう、4つのコースを設置しています。

##### (1) 全日型コース

徳風技能専門学校高等課程に同時入学し、通常の高等学校と同様に週5日通学して、専門的な知識・技能を習得しながら高等学校卒業資格を得るコース。通常の通信制高校では困難な「専門性の習得」を可能にし、専門高校に匹敵する「専門性」を養います。

##### (2) 土日コース

通常の通信制高校と同様に、レポート指導と週末に本校で行うスクーリングを中心としたコース。

##### (3) 平日サポートコース

亀山の本校で前・後期末に集中的に行うスクーリングのほか、津駅西口近くの施設で週3日（月・水・金）の午前中に行うスクーリングとレポートの作成支援を中心としたコース。

##### (4) 技能連携校コース

技能連携校である高等専修学校に同時入学し、専門的な知識・技能を習得しながら、高等学校と専修学校の2つの卒業資格を得るコース。現在、大阪府及び福井県の高等専修学校各1校に設置しており、新たな技能連携校を現在募集中です。

— 以下の2～8は、全日型コースの“徳風スタイル”です。 —

### II 学校生活に関する“徳風スタイル”

生徒がゆとりを持って学校生活を送れるよう、次のような工夫・配慮をしています。

#### 2 30人学級を基本としています。

生活集団としての学級の編成基準を標準より10人少ない30人とし、少人数指導を実現しています。

#### 3 9時30分に授業を開始しています。

授業開始時刻を通常の学校より約1時間遅くして、遠方からの通学に対応しています。

#### 4 スクールバスを学校・JR亀山駅間で運行しています。

遠方からでも通学できるよう、またその経済的負担を軽減できるよう、登下校時はスクールバスを無料で利用できるようにしています。

### Ⅲ 学習に関する“徳風スタイル”

#### 5 授業は1コマ40分を基本としています。

集中力が途切れずに学習できるよう、授業時間は標準より10分短い1コマ40分を基本としています。

#### 6 授業の自習は原則としてありません。

出張等で学校不在となる教員がいても授業が自習とならないよう、また、各コース行事や検定試験対策等を効果的に実施するための時間を十分確保できるよう、時間割を適時編成して授業を行っています。

#### 7 中間・期末試験は毎回5日間実施しています。

定期試験は、生徒の過重負担とならないよう1日に実施する科目数を少なくし、5日間実施しています。

#### 8 進級・卒業等のための補充授業を実施しています。

長期入院や不登校等のやむを得ない理由で欠席時数が多くなり、各科目等の履修認定が困難な生徒に対しては、通常的时间割とは別に特別時間割を編成し、不足時数分の補充授業を実施しています。（怠学を理由とする欠席は対象外。）

## — 進化する“徳風スタイル” —

本学園は本年度、「私たちは、生徒の自尊感情を高める実践を追求します。」と使命宣言し、生徒の「自尊感情」を高める3つの取組をスタートさせています。これらは、新たな“徳風スタイル”として確立していきます。

### Ⅳ 学習に関する新たな“徳風スタイル”

#### 1 公文式教材を使用した学習活動を新入生全員を対象に実施しています。

公文式教材（算数・数学）を使用して「自学自習方式」による積み上げ学習を継続的に行うことにより、生徒が次のように思える状態を目指して「自己成長感」や「自己効力感」を高めていきます。

- 「できなかったことやあきらめていたことができるようになった。」
- 「得意だったことがもっと得意になった。」
- 「どんな問題でも関連する知識を得て工夫すれば、ある程度は解決できると思えるようになった。」
- 「自分もやればできる。」 等

#### 2 「ソーシャルスキルトレーニング（SST）」を実施しています。

対人行動によって起こりうるストレスをコントロールし、社会生活上の適応や自尊感情を高める目的で行う実技練習である「ソーシャルスキルトレーニング（SST）」を計画的に実施することにより、生徒が次のように思える状態を目指して「自己効力感」を高めていきます。

- 「相手のことをよく知ることが大切だと思う。」
- 「言いにくいことでも勇気を出して言えるようになった。」
- 「相手を非難したり責めたりせずに自分の気持ちを落ち着いて言えるようになった。」
- 「人間関係のストレスを自分でうまくコントロールできるようになった。」 等

#### 3 ボランティア活動を単位として認定します。

学校外で休日等に生徒が自発的に行うボランティア活動を教育課程に位置付け、その活動が学校所定の条件を満たし、概ね満足できる成果が認められる場合は、単位として認定します。この制度により、生徒が次のように思える状態を目指して「自己有用感」を高めていきます。

- 「自分も社会の一員として確かに役立っていると実感した。」
- 「人として自立し、社会参加できるよう多くのことを学んで成長していきたい。」
- 「これからもボランティア活動を積極的に行いたい。」
- 「人のために一生懸命に考え、行動すれば、自分も幸福になれると思う。」 等

# — 更に進化する“徳風スタイル” —

## 徳風高等学校全日型コース内の「総合コース」を改革し、 更に多様な生徒を受け入れる学校へと進化していきます。

本学園は来年度、徳風技能専門学校の学則を一部変更し、商業実務分野に属する国際ビジネス科に加え、**文化・教養分野に属する総合科を新設し、2分野2学科体制に拡充**する予定です。

また、いわゆる「ダブルスクール就学」を可能にする徳風高等学校と徳風技能専門学校の連携について、これまでの「技能連携」を取り止め、「技能連携」よりも**連携の裁量幅が格段に広い「高専併修」を新たに導入**し、総合コースの改革を進めるための環境を整えます。勿論、これまでと同じように、徳風技能専門学校での学習を徳風高等学校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を認定していきます。

■技能連携：都道府県教育委員会の指定する技能教育施設における学習を本校における職業教科の一部の履修とみなすことのできる制度  
(学校教育法第55条、学校教育法施行令第32条～第39条)

■高専併修：大学、高等専門学校又は専修学校等における学修を本校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を与えることのできる制度  
(学校教育法施行規則第98条第1号)

これらのシステム改革により、徳風高等学校全日型コース内の「総合コース」を、**社会の変化とともに変化する地域の教育ニーズにも即応した教育課程を編成・実施できる極めて柔軟なコースへと質的転換**を図り、更に多様な生徒を受け入れるフレキシブルな学校へと進化していきます。

令和元年度まで	徳風技能専門学校高等課程		徳風高等学校 (全日型コース)	両校の 連携制度
	分野	学科		
	商業実務	国際ビジネス科	ドッグケアコース	
			パソコンコース	
総合コース				
令和2年度から	徳風技能専門学校高等課程		徳風高等学校 (全日型コース)	高専併修 (新規)
	分野	学科		
	商業実務	国際ビジネス科	ドッグケアコース	
			パソコンコース	
文化・教養 (新設)	総合科 (新設)	総合コース		

## 最後に

本学園は、「さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも何とか生きていこうとする子どもたちを受け入れ、**仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校**(No student is left behind.)」を目指す学校像の一つとしています。この学校像を実現するため、家庭や中学校をはじめ医療、福祉、行政等の各関係機関から必要に応じて支援・指導を受けながら、**本学園と各関係機関との連携協力体制の下で生徒の成長を適切に導き、支え続ける「徳風総合支援プログラム」**を構築し、保護者や中学校から提供される関係情報を参考にしながら、同プログラムを効果的に運用していく予定です。このような本学園の取組に対し、何卒、御理解、御協力を賜りますようお願い致します。